

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072000381		
法人名	有限会社粕川カトレアホーム		
事業所名	グループホーム粕川カトレアホーム		
所在地	群馬県前橋市粕川町深津1144-2		
自己評価作成日	令和5年9月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境のもと、近隣住民の温かな支援の中で地域に根ざした運営を心掛けています。運営推進会議のメンバーにも近隣の方を多く含み構成されています。更にそのような方々からは旬の野菜やお花・果物・自家製漬物を戴く機会が頻繁にあり、それを利用して食事メニューの提供も行っていきます。利用者様個々の尊厳を意識した対応、趣味や特技を発揮したり、機能の低下防止に繋がるよう取り組んでいます。平凡な日常の中にも、年間行事を行う事によって季節感を得たり、様々なレクリエーションによって、楽しみや喜びを感じて潤いのある生活となるよう工夫しています。

施設の理念でもある「愛ある介護・誠実な介護」の実践を職員一同常に心掛け、利用者様はじめご家族様にも安心して過ごせていただけるよう、業務に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「愛ある介護、誠実な介護」とし、職員の話し合いにより、概念的表現から利用者の求める援助・支援を具体化して、日々の介護サービスに活かし提供している。食事は、利用者の食べたい食材・料理の希望調査を行い、調理専門職員が調査結果を参考に栄養バランスを考え献立表を作成し、地域の方々から届く新鮮野菜を活用して、季節の旬を取り入れた料理を提供している。また、利用者の関心事やできる事に着目し、ジャガイモの皮むきや撰りたて野菜の選別等の他、共用空間(玄関、廊下、居間、食堂)と居室は、朝食後毎日利用者と職員と一緒に掃除をしている。利用者の生活環境の快適さや清潔感、食の大切さ、適度の運動とレクリエーション等の介護サービスに、職員(介護、看護、社会福祉)の独自性や専門性が活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、基本方針を申し送りを行う職員が共有するスペースに掲げて、日頃より意識するようにしている。入居者の意思を尊重した対応・持てる力を発揮し、地域の中で安心して生活できるよう支援している。	「愛ある介護、誠実な介護」を理念に、基本方針で介護サービスのめざす方向性や目的を分かりやすく示している。理念は申送りの時やカンファレンスを利用し、支援・援助の振り返りに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一住民として自治会に加入している。施設長自ら道路愛護活動に参加している。老人会の古誌・資源回収にも積極的に協力している。近隣の方々より、旬の野菜やお花、玄関の鉢植え等をいただく機会が多くある。	事業所設立時から自治会に加入し、代表者は資源(新聞・雑誌)回収や道路愛護活動に積極的に参加し、地域の人々と良好な相互関係づくりに努めている。運営推進会議の出席の他、収穫したての野菜が届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の空き情報の問い合わせや入所希望の親族の方が相談に来所されることが度々ある。入所とならない人に対しても利用サービスや制度の説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束について施設での現状を報告し、話し合いを行ったり、防災・避難訓練の報告に対しては出席者から避難通路に社用車の駐車、停車があるのはやめるべきといったような貴重な意見をいただいたりしている。	令和5年4月より事業所内において会議(対面)を開催している。利用者の生活状況報告や身体拘束についての現状と意見交換を行っている。発言内容は議事録に記録・保管し、介護サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に参加して隣接地域の生活支援整備事業の取り組みの実態について情報を得ている。運営推進会議では介護保険課の方が出席している。	介護保険に関することや、運営推進会議の開催方法(対面)の相談をしている。また、包括支援センターを利用して、介護サービスに活かせる情報収集に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を三か月に一回行っている。 又、それとは別で身体拘束に関する研修も半年に一度行っている。	日勤者の多い日を選び6ヶ月毎に、拘束に関する研修会をしている。担当職員(委員)が受講した研修内容を、職員に伝達している。開催方法は座学や、疑似体験を通し工夫して行っている。玄関は、防犯上、夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	令和6年度より義務化となる虐待防止委員会を前倒して発足し、関連法について学んでいる。 又、報道等でそのような事件があった際には、再発防止について各々の職員が考えなどを書面で提出する等、虐待に対する意識も高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がいることで保佐人や補助人と会う機会がある。必要に応じて連絡をとったり、来所時には利用者の近況を伝えたり、面会に立ち会う事もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・管理者は入所時に本人や家族に対して十分な説明を行い、不明や不安がなく納得理解していただいた上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の希望などに関しては傾聴し、できる限り本人の意向に沿えるよう心掛けている。コロナのリスクがある現況では外出は控えていただき、面会のみとしている。面会の際には本人の希望があれば職員が退席することもある。	家族からの意見・要望はなく、利用者からは傾聴のなかから「家族に会いたい・長湯がしたい」等の要望があり、コロナ禍であっても家族(キーパーソン)を通じて対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の状態や課題等のショートカンファレンスを行い意見交換している。利用者同士の相性によるトラブルの回避の為、席替え・テーブルの配置変更等を行っている。	会議の場を設け職員の意見や提案を傾聴し、意見や提案の内容により職員全体で話し合い、サービスに活かしている。そうしたなか、申し送りやカンファレンスについて意見があり、時間の変更などが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務形態に関しては、事前に希望を聞き入れられている。又、日勤の勤務も一人に過重な負担とならぬよう配分している。職員の良いところは認め、向上心や誇りを持てるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に勉強会やデモンストレーションを行い、必要な知識・技術の習得と向上を目指している。特に新人の場合は、ケアに対しアドバイスを欠かさず、質の高い人材となるよう育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他の施設との交流は思うように行っていない。疑問な事、不明な事等はGH連絡協議会を通して他の施設に問い合わせ資料をいただいたり、アドバイスを受けていたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との話し合いには時間をかけ、要望・希望・その他耳を傾けている。本人の望む介護を優先し不安解消に努め、信頼関係を早期に築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望・不安なこと等にも、最初の話し合いの場で時間をかけ、耳を傾ける事により信頼関係が築けるよう努めている。又、電話での対応も、誠実・丁寧を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との話し合いの場や情報の中でどのような支援が必要なのかを把握し、対応している。医療的対応が必要な場合は、提携病院があり速やかに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常を共にする事で、本人のできる事・できない事等を見極めることに努め、本人が迷う時、できない時にはさりげなく手を貸す等の支援している。清掃や食事時等、楽しみながら生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況・介護報告書や介護計画をお渡しする際には、利用者の現状を説明し、家族の意向も伺った上で利用者本人を支え合うという共通意識のもと支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の状況により、施設内での面会の際には玄関での距離を置いた面会をお願いしている。又、親族・知人との電話を繋ぐなど出来る限り関係の継続が出来るよう配慮をしている。	コロナ禍であっても予防策を講じて、玄関内で短時間の面会や、電話口での会話による支援をしている。また、馴染みの事業所近くの公園、神社、小菊の里等へ車で移動し、車窓から観られる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関りを求める利用者と過剰な干渉を嫌がる利用者の個性を見極め、孤立することなく利用者同士が良い関係性を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所した後も、問合わせや相談等には、入所時と変わる事なく誠意を持って取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事・お茶・レクリエーション以外の時間は居室でTVを観たり、くつろいで過ごしたりと自由な時間を希望している。又は、各々得意とする歌を披露してくれる機会があり、自信に繋がると共に楽しんでいる。	利用者自ら何がしたいか伝えられる方が多く、居室でテレビを見たい、食堂でテレビが見たいの発言を受けて、それにそって過ごしていただいたり、針類の持込みは禁止であるが針仕事をしたい利用者には、管理していただいたりして、実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人または家族への聞き取り・意向確認等、時間をかけて一人ひとりの全体像を把握する事に努め、ホームでの生活がより快適なものとなるよう力を注いでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	絶えず日常生活に気配り・目配りする事により、現状をより的確に把握することに努め、より良い介護・支援に活かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を伺い、スタッフとの話し合いで意見を集約すると共に、その時点で課題と解決に向けてのサービス内容を検討し、介護計画を作成している。	利用者が日常的に発する言葉や動作からの生活課題(ニーズ)や、介護記録に書かれた援助内容の記述を基に支援・援助の効果を評価(モニタリング)している。日勤の時間帯を選び、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記入した個別記録やモニタリング、カンファレンス、申し送り等、全てを職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の際には施設看護職員が同行している。この度のマイナンバーカードの作成にあたっては、協力する部分も多々あった。又、成年後見制度の利用にあたっては地域包括支援センターとの協力し対応した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設のケアマネージャーや地域包括支援センターの皆様との情報交換を行っている。又、地域と交流することで地域住民の皆様にご利用者を認識して頂き、緊急時には協力して頂けるように依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでの嘱託医として協力医療機関があるが、入所時に本人・家族が他の医療機関を希望すれば、そこをかかりつけ医としている。ワクチン接種時も嘱託医の来所により、馴染の場所で安心して接種してもらうことができている。	入居時、本人・家族にかかりつけ医による受診の希望を確認している。看護師により、症状の変化は嘱託医に報告・指示を受け適切に対応している。また、嘱託医の診療が必要な場合は、適宜職員が対応し家族に報告している。また、嘱託医が来所しワクチン接種をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは、看護師5名が勤務しており対応している。又、職員に対し、看護師が情報の提供・技術支援を常に行い、介護の向上を目指している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に入院した場合、安心して治療できるよう必要に応じて訪問している。又、病院と情報交換し、本人の状態の把握に努め、施設での受け入れについても医師、看護師との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には看取りに関する説明をして要望を聞いている。重度化した場合は連絡を密にすると共に終末期の過ごし方を話し合っている。対応に関してはマニュアル化して、状態の変化に対応できるようにしている。看取りの際には夜勤者の他に看護職員も宿直し、医療機関と連携して対応を行っている。	入居時に、代表者から本人・家族に重度化した場合や終末期ケアについて説明している。マニュアルの作成や、病状の変化に応じ、医療関係者や介護職、家族で話し合いケアを行っている。終末期(看取り)には、看護職員が宿直してチームの一員として支援しており、過去に20件の実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルの作成、利用者の状態から発生しやすい事故(窒息・転倒など)に対する応急手当や対応は常に徹底している。日頃から対応の勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回そのうち1回は夜間を想定し、実施している。消防署の立ち入り調査はR5.8.22に実施した。設備業者の点検は年2回実施。運営推進会議では、そのような報告を行い、災害時協力をお願いしている。	年に2回の避難訓練を実施している。訓練当日は各職員に役目を割り当て、スムーズに誘導・避難ができるよう行っている。事業所隣の畑の一部をロープで囲い、避難場所にしている。備蓄品に乾パン、水、クッキー、その他、毛布や座布団を常備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活を通し、一人ひとりの性格・人柄の把握に努め、相手を認めて常に人格を損ねないよう会話等に気配りしている。プライバシーに関しては、知り得た情報は外部に漏らさないよう配慮している。	利用者の心を傷つけるような言葉遣いや態度を把握し、全職員でそうした言動をしないよう共通理解を基に、支援している。トイレ介助ではカーテンを利用し、他者から見えない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話・仕草などを通じ、本人の思いや希望をくみ取るよう努力している。又、会話が不自由な方は目の動き・動作などから要望をくみ取っている。 如何なる時も相手の立場を考えて本人の希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝夕のスタッフとの話し合い・報告を活かし、一人ひとりの気持ち・体調にあった介護支援をする事により、日々の暮らしが心地良いものとなるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みや季節に即した服装を心掛けています。 耳・爪・髪の手入れも常に気配りし、清潔感にあふれた身だしなみに努め、必要に応じて化粧もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	塩分や糖分を控え、素材の味を活かした味付けをしている。好き嫌いを把握して代替の食材の提供も行っている。ご近所より戴いた野菜の選別や下ごしらえ(皮むきなど)と一緒に参加していただき、食の楽しみとなるようにしている。	調理専門の職員2名と介護職員、利用者により、芋の皮むきなども含め食事の準備をしている。利用者の好みの食材やメニューの調査を参考に、時には収穫したての野菜を使い、職員が献立・食材の買出し等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下力・嚙む力などを考慮してミキサー食、きざみ食として対応している。その人の食べる量にも気を遣い、見かけでは分らないよう、少ない人に不満を感じさせないような盛り付けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存歯のある方は時々状態をチェックしている。歯ブラシだけでなく、歯間ブラシや液体洗剤を使用したり、自らの歯磨きでは不十分な人には介助で歯磨きを行ったりしている。毎食後、介助や見守りにて口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な範囲でトイレでの排泄となるよう介助している。個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行い、快適に過ごしていただけるよう工夫している。	利用者一人ひとりの排泄習慣と身体機能を把握し夜間はリハビリパンツやパットを利用でも日中は、車椅子利用の方もトイレへ誘導して、トイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の昼食においてヨーグルトの提供をしている。又、水分摂取の声掛けや野菜類を豊富に取り入れる調理の工夫を行っている。体操を日課とし、廊下歩行やストレッチ等で腸の蠕動運動に繋がるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴となっているが、その時の健康状態に合わせて入浴している。気の合う人と入浴できるようにし、タイミングを合わせ、楽しさを感じていただけるようにしている。入浴時間は個々に調整して入浴後に体調不良にならないよう注意している。入浴前後の水分摂取も十分にしている。	週2回を目安に入浴を行っている。浴室には2人分のシャワーや4人入れる広い浴槽が設置されている。気の合う利用者2人と職員の見守りにより、安全に楽しい気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣の把握に努め、夜の安眠のために昼寝なども長くなり過ぎないように配慮している。特に車椅子の方には、起きている時間と横になっている時間等を配慮しながら、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の指導のもとに服用して頂いている。投薬間違いの無いように服薬トレーを作成し、確実に服用できるようにしている。場合によって錠剤を砕いたり・水に溶かすなど工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除・洗濯物干し・洗濯たたみ等、その方ができる事に参加していただいている。レクリエーションでは日によって内容を変えている。ちぎり絵制作では、紙をちぎる人・貼り付ける人と得意な部分を担当することで1つの作品が完成となる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍となってからの外出はドライブが主になっている。初詣の神社、桜のお花見、鯉のぼりの泳ぐ公園など、季節を感じて楽しんでいただけるよう配慮している。	コロナ禍の外出は、自動車を走らせ車窓からの景色を見て楽しむ支援となっていたが、最近は、事業所の周辺を散歩することや、近くの道の駅へ焼きまんじゅうを買いに出かけるなど、季節を感じたり懐かしさを感じたりして五感の刺激につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使うことはなく、必要なものがあればご家族様に連絡して購入していただくか、職員が買い物の代行をしている。実際のお金ではないが、カトリア通貨を作り、レクリエーションで自分好みのお菓子を選び、おやつを買うということをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚に電話を希望する方には取り計らいをしている。年始の挨拶状をご家族様より戴き、利用者にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を第一に考えて、朝の一斉清掃、毎食後の掃除を行っている。庭には季節の花木が次々と咲き、食堂から眺め楽しんでいる。作成したちぎり絵を季節に応じて展示している。温度・湿度調整も行い、快適な空間づくりをしている。	朝食後に、職員と利用者が一緒に食堂や居間等の共用空間と居室の清掃をしている。季節毎に利用者作品のちぎり絵を展示、窓の開閉による自然換気と空調設備を利用して、快適に過ごせる環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の食堂では、TVを観る人、新聞・雑誌を読む人など、思い思いに過ごせるようになっている。又、廊下のスペースには、希望があれば椅子を出し、外を眺めながら日向ぼっこができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や家族の写真等を飾ることで安心して過ごせるよう、危険なもの以外の持ち込みは自由としている。親や配偶者のお位牌を置いている方も数名いる。	居室には、エアコンの他、ベッド・クローゼット等が設置されており、本人の好みの物の持ち込みが自由で、写真や時計・位牌・ぬいぐるみ・テレビ等を持参している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安全に配慮し床には物を置かないようにしている。又、物の位置なども利用者が混乱しないよう無闇に動かさずに定位置を決めている。更に利用者の身体機能に合わせ、危険と思われる角にはコーナークッションなどで対策している。		